

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査及び 佐賀県学習状況調査結果

## 調査結果の公表にあたって

本校では、平成26年度も全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果について公表することになりました。

本校は、教育目標「ふるさと”若木”を愛するたくましい若木っ子の育成」、めざす子ども像「わかる子ども・かんしゃする子ども・きたえる子ども」の達成に向けて、日々教育課程に基づき、教育活動の充実を図りながら、全職員で取り組んでおります。特に、学力向上の面では、基本的な学習習慣の定着や授業の充実、タブレットを利活用したスマイル学習、きめ細やかな授業、読書の奨励などに取り組んでいます。今回公表した学力調査結果はその一部であり、発達途上の子どもたちの現時点での一面ととらえ、今後の取組の資料としたいと考えています。

今回の公表は、小学校6年生は全国学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。なお、全国学力・学習状況調査は国語・算数共にA問題・B問題という2種類のテストで成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題、B問題は思考力を要するような問題です。

また、今回の学習状況・意識調査の結果をお知らせすることにより、本校教育への関心を高め、学校・保護者・地域の皆様と力を合わせて、教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

平成26年8月28日

**武雄市立若木小学校**

## 1 児童の実態

### (1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H22 入学	80.2			64.1		
現5年	(1.19)			(1.07)		
H21 入学	83.6	90.3	69.1	85.7	89.3	81.8
現6年	(1.41)	(1.22)	(1.26)	(1.29)	(1.15)	(1.42)
H26 正答率の全国平均		72.9	55.5		78.1	58.2

5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較

### (2)意識調査から読み取れる実態

学習については、「問題に最後まで取り組む」「宿題は毎日する」など真面目に取り組んでいる。しかし、国語科や算数科について、大切な学習であるという意識はあるが、「好き」の割合はやや少なく興味・関心の面で課題を残している。

文章を書くことへの抵抗はやや少ない。また、友だちの考えを聞いて自分の考えが深まっていると感じる児童が多く、話し合い活動について、効果を感じている児童が多い。

家庭での生活については、ゲームやテレビ視聴の時間は少ない。また地域の行事に参加する児童は大変多いが、「新聞をよく読む」や「社会の出来事に関心がある」児童の割合は少なく、生活や社会への関心意欲を高める必要がある。

家庭での学習では、復習的な課題が多く、予習的な課題への取り組みが少なく、課題の与え方にも工夫が必要である。

## 2 取り組み状況

### (1)H25年度の成果と課題(H25年度の取組に対するH26年度の調査結果と課題)

「杵西型授業」に取り組み、問題解決学習の充実を図ってきた。算数科では、全学年でTTを実施し、個別の支援に力を注いだ。また家庭学習の内容について職員で共通理解し、自主学習を奨励し2年生以上で継続的に取り組んできた。その結果、5年生、6年生ともにどの教科・観点においても県の平均を上回っている。課題としては、5年の国語において「書く」観点、算数において「考え方」「知識・理解」の観点で正答率がやや低い傾向にある。6年においては、国語の「話す・聞く」の観点が他の観点到比べてやや低い。

## (2)改善に向けた具体的な取組

### ① 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「杵西型授業」について共通理解を図り、各教科で取り組む。①問題提示のくふう  
②見通しの持たせ方 ③自立解決のノート指導（書く場の保障） ④話し合い活動の充実などに重点を置く。

ノート指導では、図、言葉、式など多様な表現方法を取り入れ、話し合い活動につなげるなど、言語活動を充実させることにより思考力、判断力、表現力を育成する。

また、学習のめあてを確実に提示し、授業の最後に「振り返り」活動を取り入れ、学習したことの定着を図る。とともに形成的評価を行い、個別指導の充実に努める。

- 2 ICT 機器の効果的な利活用を通して、分かりやすい授業作りを行う。

- ・デジタル教科書、タブレット、電子黒板の利活用を十分に行う。

- 3 学んだ事を活用する場を設定し、活用力を高める。

- ・総合的な学習の時間
- ・パワーアップタイム（活用問題への挑戦）等

### ②（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 家庭と連携し、家庭学習の充実を図り、基礎的な読み・書き・計算の定着を目指す。
  - ・音読練習
  - ・日記など書く活動の日常化（○行日記、テーマ日記）
  - ・漢字練習
  - ・計算練習
  - ・自主学習の奨励（週に1回以上）

上記の内容について、学年毎に目標時間を設定し、全学年で共通して取り組む。

- 2 学習内容に応じて、予習的課題を設定し、学習への興味関心や理解を高める。

- ・スマイル学習への取組の充実

- 3 学習のルールについて共通理解し、学習への心構えや道具等の準備について全校で一貫した学業指導を行う。

- ・チャイムの合図を守る。

- ・筆箱の中味の共通理解

- ・姿勢を正しくする。

- ・話形や聴型を示し、話し方、聴き方の力を育てる。